【実施区域・面積】

栃木県、　43.6ha

【生態系タイプ】

生物多様性の維持

【実施区域の状況】

塩谷町大久保および田所地区に位置するロペ倶楽部の里山。矢板市玉田、大槻地区、特にコリーナ矢板自治区に里山が隣接している。ロペ倶楽部の里山は、もともとはゴルフ場を拡張する予定であったが、栃木県として開発を許可しないこととなり、数十年人が入り込むことができないくらい放置され、ゴミの不法投棄やいのししの温床となっていた。しかしながら、開発されず人為的な攪乱が少なかったため、いまでは貴重となった手つかずの里山が存在している。2019年から不法投棄や山火事防止、鳥獣被害対策、景観向上のために森林山村多面的機能発揮対策交付金を活用し、下刈りや枯損木除去を中心とした管理をしつつ、コナラやヤマザクラ、ホオノキ等を植樹し、再生活動も展開している。

【目標】

手つかずだった里山に生育している高齢化しつつあるコナラやヤマザクラ等の樹木を伐採し、苗を定植することで、更新作業を進めていく。また、更新作業の際にでてくる丸太の有効活用を展開し、簡易製材機による製材や薪・木製品（小物）等といった木を使う文化を創出する。

【主な活動内容】

・里山林について、森林山村多面的機能発揮対策交付金を活用し、年に1回程度下刈りや枯損木除去を行うことで、見通しを確保し、不法投棄や放火による被害の軽減に努めていく。

・高齢なコナラについて、特に穿孔がみられる木を抜き切りし、薪に活用するとともに、苗木の植林などを通じて更新作業を行っていく。

・宇都宮大学谷本丈夫名誉教授をお招きし、「里山のくらしと自然」案内人養成検討会を開催することで、里山林の生態系を中心に理解を深めていく。

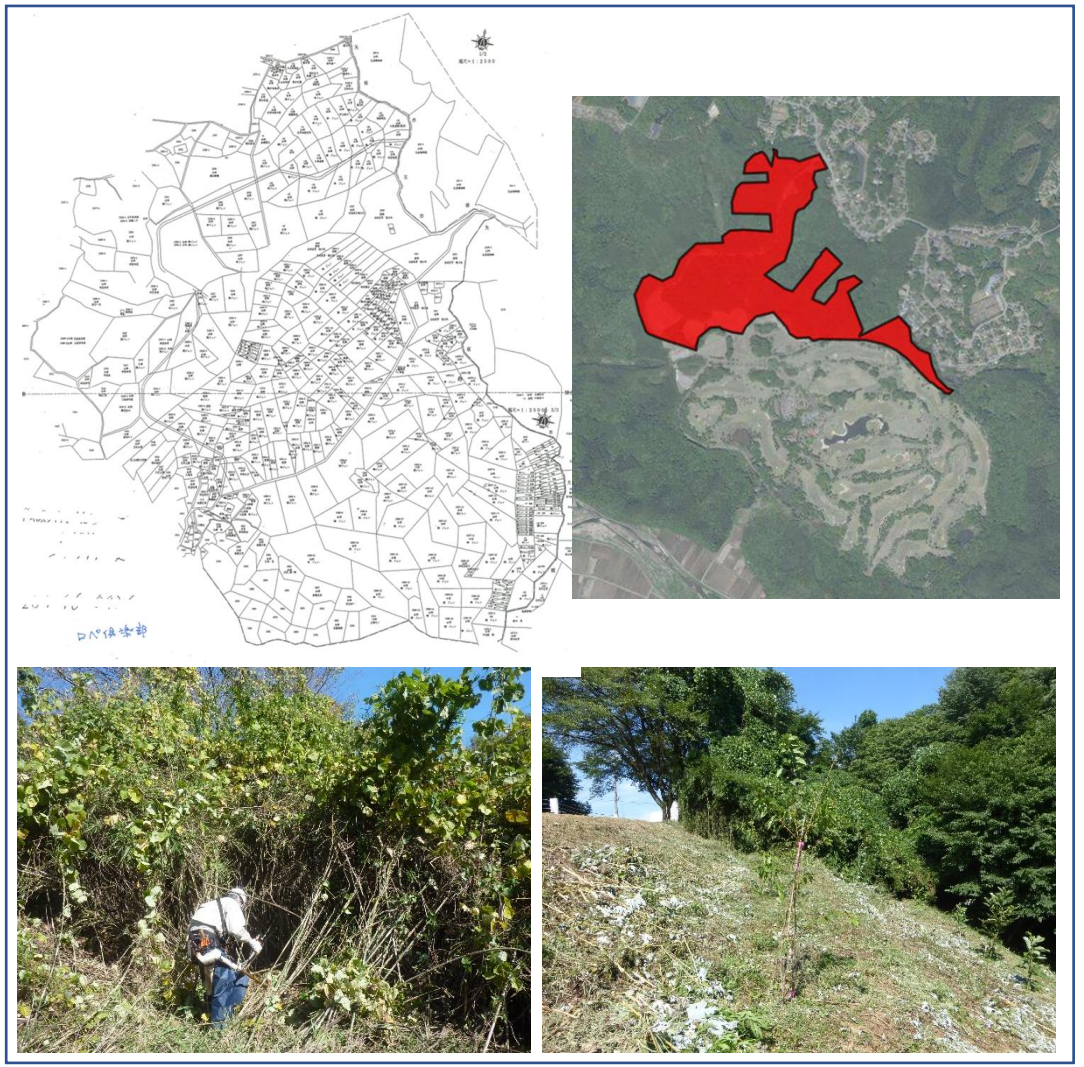
【モニタリング計画】

2025～2026年

ゴルフ場外のコナラ林にて、落葉採取時期の違いによる落葉堆肥の放射性セシウム濃度および量の変化について、宇都宮大学大久保達弘名誉教授、逢沢峰昭准教授と共同で調査研究（3か月ごとに1回、落葉堆肥をサンプリング、リタートラップも設置中）

【実施体制】

塩谷町、ロペ倶楽部、くまの木里山応援団及び矢板市との地域共働事業に関する包括連携協定の一環として、くまの木里山応援団が中心となり、里山保全・再生活動に取組みつつ、生き物調査を随時実施していく



【計画期間】

2025年9月～2030年8月